

## 地域における社会的ネットワークとボランティア活動

—ファミリーサポートセンター会員調査を手がかりとして—

林 寛子

### 1. はじめに

近代化とともに家族の規模が縮小し、家族だけでは子育てから高齢者の介護に至る担い手が不足し、家族の役割を果たせなくなってきた。近年では、家族に代わる子育てや介護などの担い手が必要となり、福祉サービスが拡大した。さらに、地域住民によるボランティア活動も重要視され、現在、地域住民による相互扶助のボランティア活動が地域生活のあらゆる場面で行われている。

例えば、ファミリーサポートが地域住民による相互扶助のボランティア活動の例としてあげられる。ファミリーサポートは、子育ての援助を受けたい人と、援助を行いたい人が会員となり、子育てを助け合うものである。ファミリーサポートは、かつての地縁・血縁関係を代替するような会員相互の援助活動を組織化したものであり、センターは活動の窓口となる。

ファミリーサポートの制度は、少子高齢化および核家族化が進むなかで、労働省が 1994（平成 6）年度から「仕事と育児両立支援特別援助事業」として都道府県を通じて市町村に設置の促進を働きかけている子育ての相互援助の仕組みである。この事業の目的は、労働者が仕事と育児、または仕事と介護を両立できる環境を整備するとともに地域の子育て支援を行うことである。平成 13 年度に対象が子育て中のすべての親に広げられ、2005（平成 17）年度に国の交付金の対象になったのがきっかけで、次々と全国各地で設立された。

子育て支援の領域では、2003 年に次世代育成支援対策推進法が施行されて以降、少子化対策や子育て支援施策は保育対策よりも地域における子育て支援の事業に重きが置かれるようになった。この地域における子育て支援の事業は地域住民のボランティアに形成する団体や組織における活動に頼るところが大きく、このファミリーサポート制度もその一つと位置付けることができる。地域住民による相互扶助の活動やボランティア活動は、現代社会における家族に代わる子育てから介護に至る担い手として大いに期待されている。

しかし、地域はそれぞれの地域ごとにさまざまな特性をもつ。そのため地域が異なればボランティアに対する意識も違うはずである。ボランティアに対する意識が違えば、ボランティア活動で援助を行いたい者の実態も、ボランティアに支援を受けたい者の実態も違うであろう。

そこで、地域の人のために子育ての支援を行いたい者、地域の人から子育ての支援を受けたい者が集まる子育ての相互扶助のネットワークである山口市のファミリーサポートセンター会員を例に、会員に対して実施したボランティア意識調査のデータ結果を用いて、

地域住民によるボランティア活動の実態、ボランティアやコミュニティに対する意識の実態から、ボランティア活動の規定要因を検討するとともに、ボランティアに対する意識やボランティア活動が地域性を基盤にしていることを明らかにするために、地域性の異なる地方都市（山口市中心地域）と農山漁村地域（山口市周辺地域）とを比較検討する。

## 2. 山口市ファミリーサポート制度の現状

山口市のファミリーサポートセンターは労働省の事業の一つであることから、全国と同様の仕組みになっている（図1）。このファミリーサポートの援助は1時間600円程度の謝礼を必要とするため、有償ボランティアと言われることが多い。また、ファミリーサポートの援助内容は表1のとおりで、これも全国と同様である。

ファミリーサポートセンターのシステム

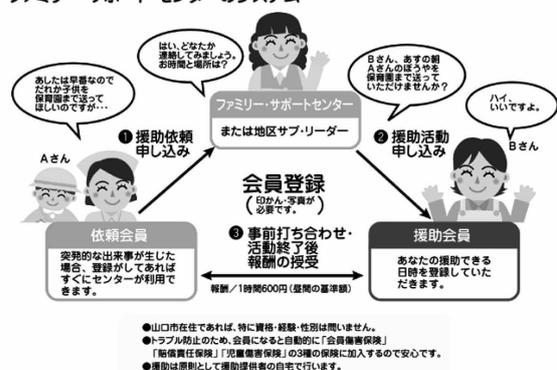


図1 ファミリーサポートセンターの仕組み

表1 ファミリーサポート援助内容

1. 保育施設の保育開始時間まで子どもを預かります。
2. 保育施設の保育終了後、子どもを預かります。
3. 保育施設まで子どもの送迎を行います。
4. 学童保育終了後、子どもを預かります。
5. 学校の放課後、子どもを預かります。
6. 子どもが軽度な病気の場合などに、臨時的、突発的に終日子どもを預かります。
7. 子どもが熱をだし園から迎えがくるよう連絡が入ったが、仕事で迎えに行けない。
8. 乳幼児を連れて出かけにくい。(参観日、病院、その他)
9. 産前・産後で、子どもの送迎がむずかしい。

社会福祉法人山口市社会福祉協議会本部 HP より  
<http://www.yshakyo.or.jp/service/detail01.htm#06>

山口市は平成17年10月1日、旧山口市と周辺地域の小郡町、秋穂町、阿知須町、徳地町の1市4町が合併した。そして、平成22年1月16日には阿東町と合併した。旧山口市である現在の山口市中心地域は山口県の行政、教育の中心となる地域であり、地方都市である。これに対し、周辺地域である小郡町は山口県の流通の中心となる地域で、秋穂町、阿知須町、徳地町、阿東町は農林漁業の地域である。

現在、山口市にはファミリーサポートセンターが山口、小郡、秋穂、阿知須、徳地



図2 山口市ファミリーサポートセンター所在地

社会福祉法人山口市社会福祉協議会本部 HP より  
<http://www.yshakyo.or.jp/service/detail01.htm#06>

の5ヶ所ある。合併当時、旧自治体には既にファミリーサポートセンターが設置されており、合併後、社会福祉法人山口市社会福祉協議会が新山口市のファミリーサポートセンターの本部となった。

ちなみに、旧山口市のファミリーサポートセンターは、1994

(平成6)年に山口県婦人教育文化会館において山口市の委託事業として開設した。労働省が

事業を開始した年度に事業を導入している。旧小郡町のファミリーサポートセンターは2001(平成13)年に職業生活と家庭生活との調和の取れた充実した生活を可能とするための環境整備対策の補助金事業として開設した。図3はファミリーサポート制度開始初期の頃の制度を導入した市町村数の推移である。これを見ると、旧小郡町の導入も全国的にみて非常に早い時期であったことがわかる。

山口市ファミリーサポートセンターの活動件数は、平成22年(1月～12月)に5,928件あり、最も多い活動内容は、「放課後児童クラブの送迎」1,442件であった。

会員数は表2のとおりで、依頼会員が援助会員よりもはるかに多い状況にある。特に、山口市中心地域となる山口ファミリーサポートセンターにその傾向が顕著である。

以上のように、同じ山口市ファミリーサポートセンター会員でも、山口市中心地域と周辺地域では、会員登録において地域の違いが生じている。そこで、地域性の違いはボランティアに対する意識やボランティア活動、ボランティア活動の規定要因に違いを生じさせていることを明らかにするために、山口市ファミリーサポートセンター会員を対象として2011年7月に実施したボランティア意識調査のデータを使用して山口市中心地域(旧山口市)と山口市周辺地域(小郡、秋穂、阿知須、徳地)とを比較検討する。

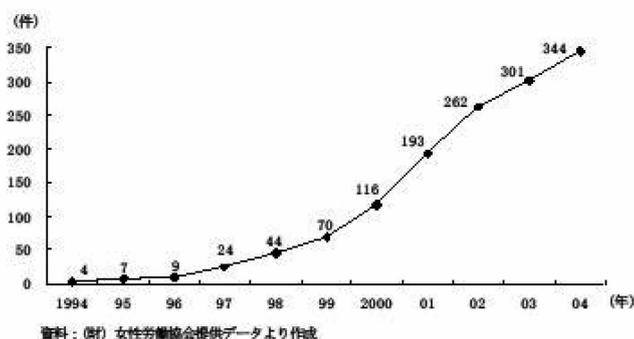


図3 ファミリーサポート制度導入の市町村数の推移

(出所) 宮木由貴子,「「助育」としてのファミリーサポート制度」,『ライフデザインレポート』,株式会社第一生命経済研究所,2006,pp.27-29

表2 山口市ファミリーサポートセンター会員数 (平成22年12月末1,125人)

	依頼会員	援助会員	両方会員
山口	566	143	97
小郡	161	52	19
秋穂	15	14	1
阿知須	21	22	2
徳地	8	4	0
計	771	235	119

### 3. 山口市ファミリーサポートセンター会員のボランティア活動規定要因

#### 3. 1 会員の居住地域の特性

調査はアンケート調査で山口市ファミリーサポートセンター全会員921名(平成23年

7月1日現在)を対象に郵送法で実施した。会員の内訳は、山口市中心地域会員816名、山口市周辺地域会員105名である。回収票は196票(山口市中心地域131票、山口市周辺地域65票)、回収率は21.3%(山口市中心地域16.1%、山口市周辺地域61.9%)であった。調査項目は、ボランティア活動の経験、ボランティア活動のきっかけ、ボランティアに関わる意識からなる。

ボランティア意識や活動、およびボランティア活動の規定要因について検討する前に、調査対象者の居住地域の地域性を明らかにするために、会員の年齢(図4)、家族形態(図5)、近くにいる親族の有無(図6)、親しい親戚の有無(図7)、親しい近所の人(図8)、親しい友人の有無(図9)、地域活動参加状況(図10)、地域活動数(表3)について確認しておく。

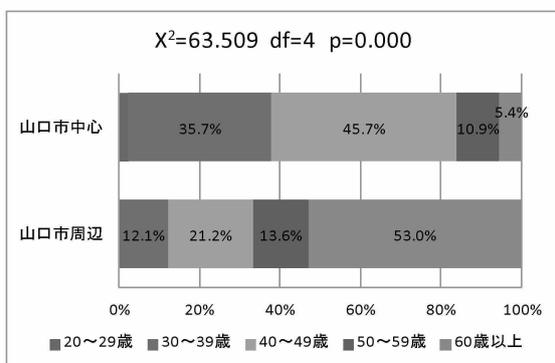


図4 会員の年齢

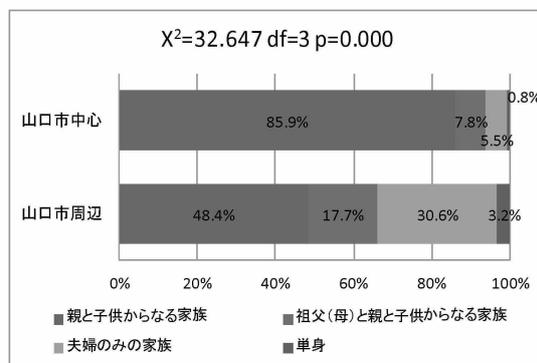


図5 会員の家族構成

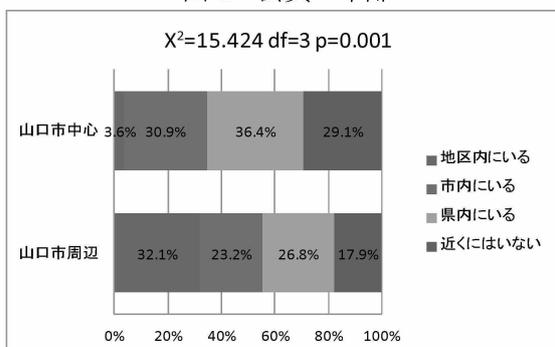


図6 近くにいる親族の有無

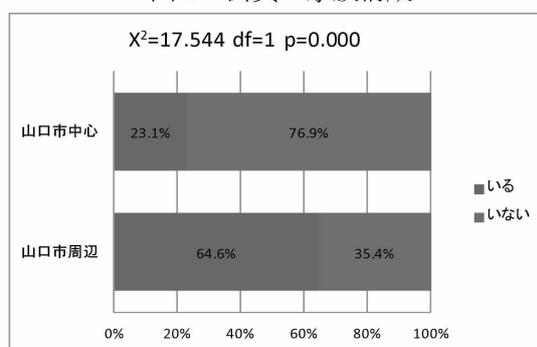


図7 親しい親戚の有無

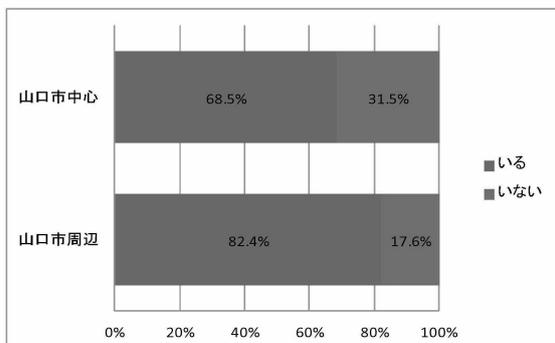


図8 親しい近所の人(の有無)

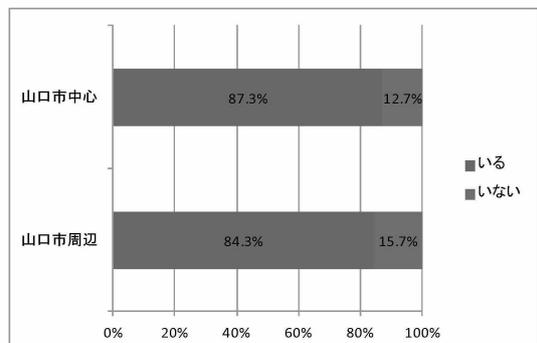


図9 親しい友人の有無

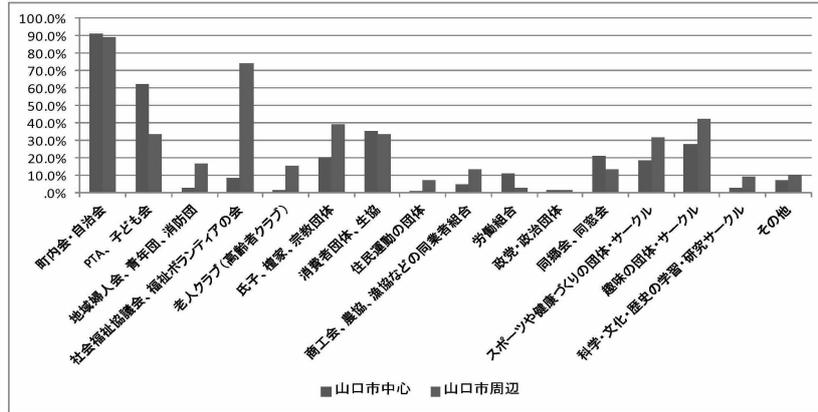


図 10 地域活動参加状況

山口市中心地域の会員は、40代の会員が最も多く、子育ての支援を必要とする可能性の高い20～40代の会員が8割以上を占めている。家族形態は、核家族が多い。身近に頼ることのできるネットワ

表 3 地域活動数

	度数	平均値	F 値	有意確率
山口市中心	129	3.16	21.916	.000
山口市周辺	66	4.35		
合計	195	3.56		

ークは、周辺地域に比べて親族や親戚が身近にいない会員が多い。地域活動は、町内会・自治会、PTA・子ども会に参加している者が多いが、団体所属数は周辺地域よりも少ない。

山口市周辺地域の会員は、60歳以上の会員が最も多く半数以上を占めている。高齢の会員が多いため、夫婦のみの家族が多い。また、中心地に比べ祖父(母)と親と子どもからなる家族も多い。身近に頼ることのできるネットワークは、近くに親族がいる会員が中心地よりも多く、特に地区内に親族がいる会員が多い。また、親しい親戚も近くにいる環境にある。地域活動は、町内会・自治会、社会福祉協議会・ボランティアの会に参加している者が多い。地域における活動への参加状況は、中心地域よりも団体などの活動への参加(所属数)が多い。

以上のとおり、山口市中心地域と周辺地域の違いは、親族、親戚などの血縁的ネットワークの保有と、地域活動への参加度(所属数)に生じている。地域におけるネットワークが地域性の違いとして表れている。

### 3. 2 ボランティア活動とボランティア意識

つづいて、会員のボランティア活動について検討する。ファミリーサポート会員は、依頼会員として登録していても、日頃は利用しておらず、万が一のために利用登録だけしている者もいれば、援助会員も登録はしていても、日頃、援助活動を行っていない者もいる。また、謝礼の授受があるため、ファミリーサポートの援助活動をボランティアと思っている者もいれば、ボランティアと思っていない者もいる。特にファミリーサポートの援助をボランティアと思っていない会員が少なからずいることが自由記述から見てとれた。ボラ

ンティア活動に対する報酬の授受についての考えを質問項目に設けており、その結果を見てみると、全体で、報酬を受け取っても良いとする考え方の会員が65.8%いるのに対し、報酬を受け取らないほうが良いとする考え方の会員が10.9%いる。地域別の有意な差は見られなかった。

以上のことから、本報告では、ファミリーサポートの活動をボランティアであるかどうかは、本人の認識

に任せることとし、ファミリーサポートの活動だけでなく、広く地域におけるボランティア活動の実態を把握するため、ボランティア経験の有無(図12)、ボランティア経験者の活動分野(図13)、ボランティア経験者の活動頻度(図14)、ボランティア経験者の活動年数(図15)、ボランティア経験者のボランティア活動のきっかけ(図16)について地域比較を行う。

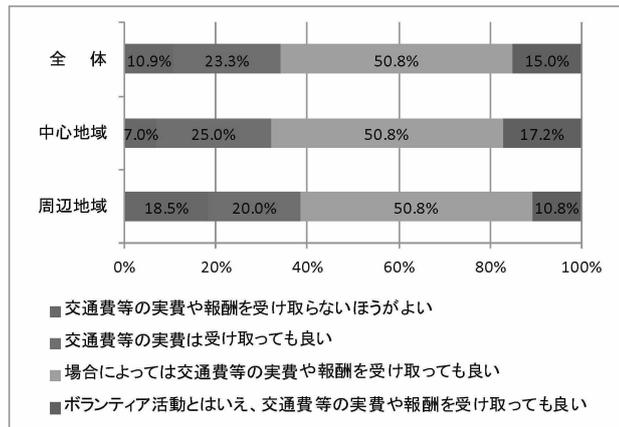


図11 ボランティア活動に対する報酬の授受への考え

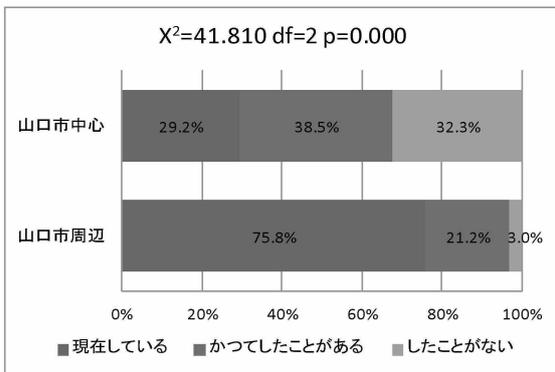


図12 ボランティア経験の有無

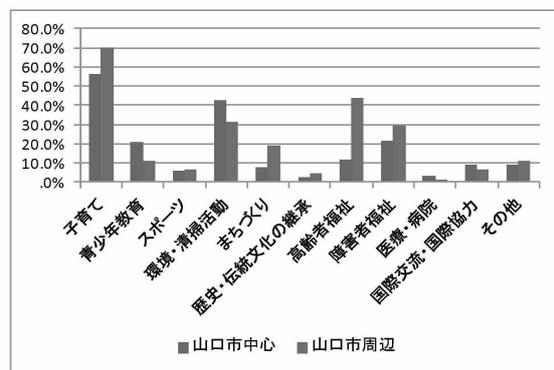


図13 ボランティア経験者の活動分野

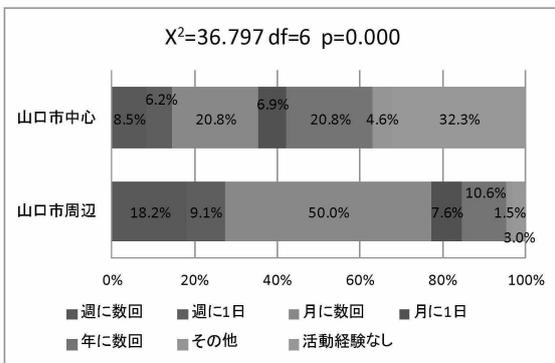


図14 ボランティア経験者の活動の頻度

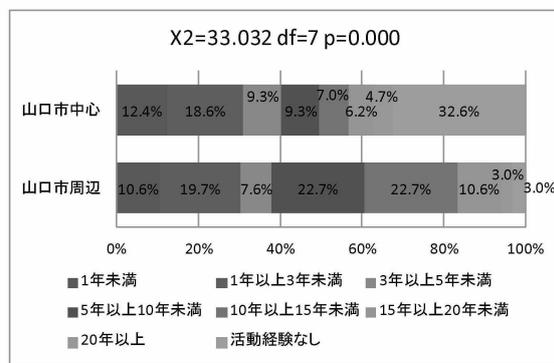


図15 ボランティア経験者の活動年数



調査票は、箱井・高木の4つの援助規範意識のそれぞれの質問項目の中から2項目ずつ選び、表4のとおりボランティア意識項目として8項目設定した。そして、4段階評価で、そう思う4点、どちらかといえばそう思う3点、どちらかといえばそう思わない2点、そう思わない1点を与え、合計点を算出しボランティア意識・スコアとした。

ボランティア意識・スコアの地域比較は図17のとおりである。ボランティア意識・スコアでは、地域の差は見られない。ボランティア意識を詳細にみると(表5)、全体では、弱者救済規範の2項目の平均値が高い。地域を比較してみると、中心地域では、返済規範「贈り物には同額をかえすべき」が高く、周辺地域は交換規範「頼っている人には親切にすべき」が高い。

表4 ボランティア意識

- |                    |          |
|--------------------|----------|
| 1. 贈り物には同額をかえすべき   | (返済規範)   |
| 2. 人にかけてた迷惑は償うべき   | (返済規範)   |
| 3. 社会の利益を優先するべき    | (自己犠牲規範) |
| 4. 困っている人を助けるべき    | (自己犠牲規範) |
| 5. 相手の利益を優先するべき    | (交換規範)   |
| 6. 頼っている人には親切にすべき  | (交換規範)   |
| 7. 社会的弱者はみんなで助けるべき | (弱者救済規範) |
| 8. 不当な立場の人を助けるべき   | (弱者救済規範) |

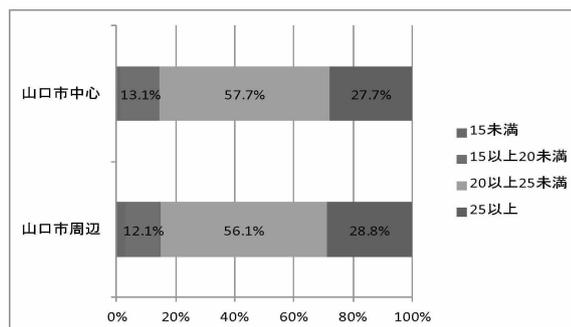


図17 ボランティア意識・スコア

表5 地域別ボランティア意識の詳細の平均値

項目	地域	度数	平均値	F 値	有意確率
1. 贈り物には同額をかえすべき	山口市中心	130	2.91	10.59	.001
	山口市周辺	66	2.48		
	合計	196	2.77		
2. 人にかけてた迷惑は償うべき	山口市中心	130	2.93	3.52	.062
	山口市周辺	66	2.70		
	合計	196	2.85		
3. 社会の利益を優先するべき	山口市中心	130	2.40	1.29	.257
	山口市周辺	66	2.53		
	合計	196	2.45		
4. 困っている人を助けるべき	山口市中心	130	2.41	.02	.893
	山口市周辺	66	2.42		
	合計	196	2.41		
5. 相手の利益を優先するべき	山口市中心	130	2.23	.00	.947
	山口市周辺	66	2.22		
	合計	196	2.22		
6. 頼っている人には親切にすべき	山口市中心	130	3.09	5.54	.020
	山口市周辺	66	3.33		
	合計	196	3.17		
7. 社会的弱者はみんなで助けるべき	山口市中心	130	3.28	1.96	.163
	山口市周辺	66	3.42		
	合計	196	3.33		
8. 不当な立場の人を助けるべき	山口市中心	130	3.39	.89	.347
	山口市周辺	66	3.31		
	合計	196	3.36		

つづいて、コミュニティモラルについては、鈴木広ら（1988）が1983年に実施した大都市コミュニティ調査の調査票を参考にした。コミュニティモラルは人々のコミュニティに関与する程度を知るための概念装置である。したがって、コミュニティモラルが高いほど、コミュニティ形成にとって望ましいといえ、地域における相互扶助の活動も可能になる。

コミュニティモラルの意識項目は感情、統合認知、参加意欲の三要素からなっており、もともとの調査票は12項目からなっているが、本調査では8項目設定した。そして、4段階評価で、そう思う4点、どちらかといえばそう思う3点、どちらかといえばそう思わない2点、そう思わない1点を与え、合計点を算出し、コミュニティモラル意識・スコアとした。コミュニティモラル意識・スコアは山口市中心地域よりも周辺地域のほうが高かった。

表6 コミュニティモラル

1. リーダーは良くやっている
2. 地区の悪口は自分の悪口
3. 町の役に立ちたい
4. 市議員を出すことは大切
5. 行事に参加する
6. 地域にずっと住みたい
7. 住民は助け合い、世話しあっている
8. 住民は団結心が強い

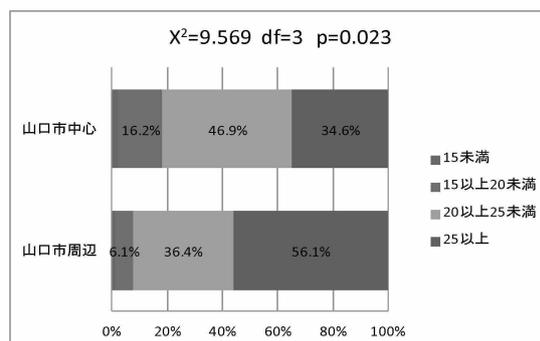


図18 コミュニティモラル意識・スコア

### 3. 3 ボランティア活動を規定する要因

以上、ボランティア活動とボランティアに関わる意識の実態を踏まえた上で、ボランティア活動に意識がどのように関連しているのか、そして、地域性がどのように影響しているのか検討する。山口市中心地域と周辺地域の地域性の違いは、地域におけるネットワークであった。そこで、ボランティア経験の有無、ボランティア意識・スコア、コミュニティモラル・スコア、地域におけるネットワーク（近くにいる親族の有無・親しい親戚の有無・親しい近所の人・親しい友人・地域活動の所属数）の関連について検討する。

表7はボランティア経験の有無、ボランティア意識・スコア、コミュニティモラル・スコア、ネットワークの相関を示したものである。全体では、コミュニティモラルが高い人が、ボランティア意識が高く、ボランティア活動をしている。コミュニティモラルは、親しい近所の人、親しい友人といった地縁的ネットワークをもつ人ほど、また地域参加が多い人ほど高くなっている。ボランティア活動は、コミュニティモラルの高さよりも地縁的ネットワークをもつ人ほど、また地域参加が多い人ほど活動している。

地域比較では、山口市中心地域では、コミュニティモラルが高い人がボランティア意識が高い。しかし、ボランティア活動に意識はつながっていない。ボランティア活動につながっているのは、地域参加である。地域参加が多い人ほどボランティア活動をしている。

山口市周辺地域では、コミュニティモラルとボランティア意識に相関がない。コミュニティモラルはボランティア活動とも関連はなく、周辺地域においてボランティア活動はボランティアに関わる意識とつながっていないと言える。しかし、周辺地域において、ボランティア活動は、親しい近所の人、親しい友人といった地縁的ネットワークに強く関連している。地縁的ネットワークをもつ人ほど、地域参加が多い人ほどボランティア活動をしている。

表7 ボランティア活動・意識とネットワークの相関

	全体			山口市中心地域			山口市周辺地域		
	ボランティア活動	ボランティア意識・スコア	コミュニティモラル・スコア	ボランティア活動	ボランティア意識・スコア	コミュニティモラル・スコア	ボランティア活動	ボランティア意識・スコア	コミュニティモラル・スコア
ボランティア活動	1	-.074	.167*	1	-.121	.121	1	.058	-.069
ボランティア意識・スコア	-.074	1	.165*	-.121	1	.175*	.058	1	.182
コミュニティモラル・スコア	.167*	.165*	1	.121	.175*	1	-.069	.182	1
近くにいる親族	.001	.044	-.081	.161	-.009	-.077	-.190	.114	-.018
親しい親戚	.118	-.071	.096	-.065	-.005	.020	.078	-.158	.021
親しい近所の人	.252**	.027	.306**	.162	.049	.301**	.406**	-.003	.251
親しい友人	.190**	-.024	.231**	.162	-.013	.205*	.405**	-.043	.318*
地域参加(所属団体数)	.422**	-.110	.362**	.320**	-.059	.446**	.391**	-.173	.083

\*\*、相関係数は 1% 水準で有意(両側)です。

\*、相関係数は 5% 水準で有意(両側)です。

以上のことから、周辺地域は地域性の違いとして生じていた地域におけるネットワークが地域住民をボランティア活動に参加させる一つの要因になっており、ボランティア活動が地域性を基盤としていると考えられる。

ちなみに、ボランティア意識の詳細項目とボランティア活動の有無との関連(表8)を見てみると、山口市中心地域も周辺地域も返済規範が強い人は、ボランティア活動をしていない。周辺地域では、自己犠牲規範が強い人がボランティア活動をしている。

表8 地域別ボランティア活動とボランティア意識の Pearson の相関係数

		全体 ボランティア活動の有無	山口市中心 ボランティア活動の有無	山口市周辺 ボランティア活動の有無
返済規範	1. 贈り物には同額をかえすべき	-.314**	-.227**	-.310*
	2. 人にかけて迷惑は償うべき	-.109	-.092	.035
自己犠牲規範	3. 社会の利益を優先すべき	.065	-.027	.180
	4. 困っている人を助けるべき	.031	-.056	.256*
交換規範	5. 相手の利益を優先すべき	-.003	-.045	.109
	6. 頼っている人には親切にすべき	.032	-.010	-.160
弱者救済規範	7. 社会的弱者はみんなで助けるべき	.014	-.074	.072
	8. 不当な立場の人を助けるべき	.005	.011	.117

\*\*、相関係数は 1% 水準で有意(両側)です。

\*、相関係数は 5% 水準で有意(両側)です。

また、ボランティア意識とコミュニティモラル・スコアとの関連（表 9）を見てみると、山口市中心地域も、周辺地域も、弱者救済規範はコミュニティモラルが高い人ほど高い。また、交換規範の「頼っている人には親切にすべき」は周辺地域においてコミュニティモラルが高い人ほど高く、自己犠牲規範の「社会の利益を優先すべき」は中心地域においてコミュニティモラルが高い人ほど高かった。返済規範はコミュニティモラルとの関連は見られない。

ボランティア意識は、ボランティア活動ほど明確に地域性を基盤にしているとは言い難く、山口市中心地域においても周辺地域においてもほぼ同様の意識が広がっていると考えられる。

表 9 地域別ボランティア意識の詳細とコミュニティモラル・スコアの Pearson の相関係数

		全体	中心地域	周辺地域
		コミュニティモラル・スコア	コミュニティモラル・スコア	コミュニティモラル・スコア
返済規範	1. 贈り物には同額をかえすべき	-.014	.080	-.052
	2. 人にかけての迷惑は償うべき	-.029	-.032	.064
自己犠牲規範	3. 社会の利益を優先すべき	.181*	.224*	.073
	4. 困っている人を助けるべき	-.021	-.049	.023
交換規範	5. 相手の利益を優先すべき	.018	.028	.005
	6. 頼っている人には親切にすべき	.257**	.199*	.293*
弱者救済規範	7. 社会的弱者はみんなで助けるべき	.279**	.236**	.329**
	8. 不当な立場の人を助けるべき	.226**	.247**	.259*

\*\*、相関係数は 1% 水準で有意（両側）です。

\*、相関係数は 5% 水準で有意（両側）です。

#### 4. まとめ

以上の結果から、コミュニティモラルやボランティア意識が高いだけではボランティア活動に結び付いていないことが明らかになった。ボランティア活動を規定する要因として重要なものは、近所の人や友人などの地縁的なネットワークである。ボランティア活動は地縁的なネットワークという地域性を基盤にして支えられている。

ボランティア意識は、ボランティア活動ほど明確に地域性を基盤にしているとは言い難い結果が得られた。どちらの地域においても、ボランティア意識は弱者救済規範が全体的に高く、弱者救済規範が高い人ほどコミュニティモラルも高い。しかし、ボランティア意識が高いからといってボランティア活動につながってはならず、ボランティア意識は地域に限らず基層的な意識となっていると言える。

山口市ファミリーサポートセンター会員を事例とした調査結果からは、地縁的なネットワークだけでなく、血縁的なネットワークなど地域におけるネットワークを多く保有して

いる周辺地域のほうが、地域活動参加者が多く、ボランティア活動をしていると言える。

ファミリーサポート制度の仕組みは、依頼会員に地縁的なネットワークがなくても、援助が必要な時にセンターがコーディネートして援助会員を紹介してくれる。地縁的なネットワークのない依頼会員も援助を求めることで身近な地域の中に知人が広がっていくことになる。こうして広がった地縁的なネットワークが新たな援助会員を創出することにつながっていれば、ファミリーサポート制度の継続維持の仕組みも十分に機能していることになるであろう。

ファミリーサポート制度のように地域住民による相互扶助の活動やボランティア活動が期待をされ、これらの活動について自治体も大いに期待をし、支援をしている。地域におけるボランティア活動の定着や拡大には、地域住民を身近な地域活動に巻き込んで、地域住民のネットワークを拡大していけるかが、重要になってくるであろう。

## 付記

本稿で扱った山口市ファミリーサポート会員に対するボランティア意識調査は、山口市社会福祉協議会および山口ファミリーサポートセンターに全面的にご協力いただいた。記して、感謝を申し上げる。

本稿は、日本学術振興会平成 21 年度～23 年度科学研究費補助金基盤研究 (C)「日本と台湾におけるボランティアリズムと社会資本の多様化に関する比較研究」課題番号 21530499、研究代表者 山口大学名誉教授 小谷典子 (三浦典子) に基づく研究成果の一部である。

## 参考文献

社会福祉法人山口市社会福祉協議会本部 HP

<http://www.yshakyo.or.jp/service/detail01.htm#06> 2011.12.1.

社会福祉法人山口市社会福祉協議会,「会誌 山口市ファミリーサポート通信 春」, Vol.33, 2011 年.

鈴木広編,『社会分析 (社会学研究年報)』, 17 号, 1988 年, 434 頁.

箱井英寿・高木修,「援助規範意識の性別, 年代, および, 世代間の比較」,『社会心理学研究』, 第 3 巻第 1 号, 1987 年, 39-47 頁.

宮木由貴子,「「助育」としてのファミリーサポート制度」,『ライフデザインレポート』, 株式会社第一生命経済研究所, 2006, 27-29 頁.

所属：山口大学アドミッションセンター

E-mail アドレス：hiroko.h@yamaguchi-u.ac.jp